

中国春季リーグ戦男子1部 Final stage 及び女子2部2日目、3日目結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/9、10に岡山大学体育館において、中国春季リーグ戦男女2部2日目、3日目が開催されました。

また、5/16、17に広島経済大学体育館において、中国春季リーグ戦男女1部 Final Stage が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

vs 広島文化学園大学

○3-2 (22-25、15-25、25-21、25-23、15-13)

vs 福山平成大学

●0-3 (21-25、13-25、18-25)

vs 広島工業大学

●1-3 (22-25、25-18、18-25、22-25)

(男子1部最終結果)

1位 福山平成大学 9勝1敗

2位 東亜大学 9勝1敗

3位 広島経済大学 5勝5敗

4位 広島文化学園大学 4勝6敗

5位 広島大学 2勝8敗

6位 広島工業大学 1勝9敗

(女子)

vs 岡山大学

○2-0 (25-16、25-19)

vs 周南公立大学

●0-2 (23-25、33-35)

vs 山口大学

○2-1 (25-22、16-25、25-20)

(女子2部最終結果)

- 1位 島根大学 4勝1敗
- 2位 山口大学 4勝1敗
- 3位 山陽学園大学 3勝2敗
- 4位 広島大学 2勝3敗
- 5位 周南公立大学 1勝4敗
- 6位 岡山大学 1勝4敗

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-haru-top.html>

男子は、出来る事が着実に増えていて、上昇気流にあるチームの強みが広島文化学園大学戦で結果につながりました。サーブミスや自分たちのミスが少なくなり、ラリーの回数が増えたことで、相手は、できることが10あるとしたら10の中できちんとやらないといけな、というマインドだったのに対し、広大は、できることが5くらいでそもそもの分母が少ない状態ですが、それを6に、7にしようと、こんなこともできるんじゃないか、とチャレンジ精神をもって前向きにプレーできていたことが印象的でした。2セットを取られてから3セットを取り返した試合展開は13年ぶりで、最終セットの集中力は特に素晴らしく、バレーボールを楽しむ充実感も得られて「成功体験」になったことと思います。レフトに1年生の田代(愛知・名東高校)が入り、さらに若返ったチームにとっては、ステップアップにつながる良いきっかけになったことは間違いありません。ただ、これからは、この文化戦のように、今回と同じことをやろうとしても、それは100%できません。経験値が一段階上がった後に、今回のような充実感を得るためには、今回以上のパフォーマンスをすることが不可欠です。川村(2年・東京・日本大学第三高校)が実践してくれていますが、常に今に満足せず、工夫を積み重ねることでこのチームはまだまだ強くなりますので、若いチームの失敗でありがちな「成功体験にすぎる」ことなく、挑戦心をもって取り組むことを続けて欲しいと思います。

一方で、弱みの部分があることも間違いなく、メンバーを入れ替えた広島工業大学戦は、ストレート負けと言っていいほど一方的な内容でした。サイドアタッカー陣は競争力があって切磋琢磨できていますが、他のポジションについては層が厚いとは決して言えません。特にレシーバー陣は、まずリベロの出口(4年・長崎・五島高校)がもう一段階も二段階も階段を上るの必要があり、第2リベロやピンチサーバー、レシーバーとして出場する選手た

ちを底上げさせないといけません。今はセッターの新谷（3年・広島城北高校）がカバーしてくれている割合が大きく、メンバーが変わればコンビは到底できない状況です。メンバーチェンジで全体的に感じるのですが、やってやろう感がないと言うか、躍動感がなく、自分が流れを変えてやる、自分がチームを変えてやる意識が残念ながら伝わってきません。声を出すとか盛り上げるとかで解決することではなく、そうしたオーラと言うのは、練習の裏付けがあれば自然と出てくるもので、だからこそ相手へのプレッシャーとなり、流れが変わるきっかけになるものです。技術は後から必ずついてきますので、まずは練習に貪欲な選手たちでコート内とアップゾーンが埋まるように、取り組む姿勢を大事にして欲しいと思います。

2部の広大女子については、周南公立大学に勝った後で疲労が見えた岡山大学、レギュラーメンバー3人が不在となった山口大学から勝ち星を拾って4位となったものの、チャレンジリーグ優勝のくらしき作陽大学（倉敷アブレイズと連携）に抜かれるのは目に見えていて、チャレンジリーグ降格がいよいよ現実味を帯びています。日々、どれくらいのプレッシャーの中で練習しているかどうかは、試合中の重心の位置を見れば一目瞭然ですが、広大はほとんど立ったままと言うか、膝を曲げて腰を落とす姿勢が全く出来ておらず、自分たち自身で追い込めない甘さが如実に現れています。ボールの軌道は必ず上から下に落ちていくので、触る位置が低いほどボールを上げられる確率は高くなりますが、重心が上にあるので高い位置でボールを触らざるを得ず、結果として、ボールが繋がらない、自分たちの時間が作り出せなくなっています。昨年までは、学年が上がるごとに、時間を追うごとに成長を感じましたが、今年は、1年生や2年生の頃の方が上手だった、良かったと思うことがほとんどです。前回の繰り返しになりますが、新1年生はセンターの森原（広島・安田女子高校）、ライトの太田（三重・鈴鹿中等教育学校）の2人ともがコート内で抜群の存在感と役割を果たしてくれていますので、時間が経てば経つほど、練習を重ねれば重ねるほど、強く逞しいチームと人に成長できる環境が構築されることを願っています。

今週末は、岡山大学体育館ほかで中四国大会が、5/31には春季リーグ入替戦が広島大学北体育館で行われます。

引き続きよろしく願いいたします。